



学校だより

第 11 号 ジャカルタ日本人学校
令和 7 年(2026 年)1 月 30 日
発行:校長 成瀬 剛慈
TEL : 021-745-4130

今年もよろしくお願いいたします

校長 成瀬 剛慈

新しい年 2026 年が始まり、早くも 1 ヶ月が過ぎようとしています。

すでにお伝えしておりますように、学校長が一身上の都合により帰国することになり中学部教頭の成瀬 剛慈（なるせ こうじ）が職務を代行することになりました。私が 3 月末まで校長業務を遂行してまいります。日本人学校での校長業務は今年度が初めてではありますが、前任地の北海道では教頭職を 5 年、校長職を 6 年間務めてまいりました。これまでの経験を生かし、児童・生徒の皆さん、保護者の皆様に不安や混乱を生じさせてしまうことがないように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、3 学期の始業式に子どもたちには次のような話をしました（抜粋）。

周りから言われてうれしい言葉ランキングというのがあるそうですが、圧倒的に 1 位となった言葉は「ありがとう」という言葉だったそうです。子どもたちにも「言われてうれしい言葉は？」と問いかけると、児童・生徒からは『ありがとう』と言う声がすぐに上がりました。

子どもたちには、①学校に通わせてくれている保護者の人たち、②ドライバーや通学バスの運行に携わってくれている方々、③学校の設備の維持やみなさんの活動を支えてくれるカリヤワンの方々、④ヘリテイジの皆さんをはじめとするゲストティーチャーの方々、⑤社会見学や職業体験など校外でお世話になっている方々、⑥毎日の勉強を教えてくれたり、相談にのってくれる先生方。このような身の回りの方々への感謝の気持ちをしっかりと持ち、「ありがとう」があふれる 3 学期にしようという話をしました。

特に、3 月に「卒業」という大きな節目を迎える、小学校 6 年生、中学校 3 年生の皆さんは、お世話になった人たちに感謝の気持ちを持ち、次のステップに進んでもらいたいと思います。



ジャカルタ日本人学校では、現地校との交流に力を入れており、小学部は学年ごとに交流活動を進めています。

1月20日には、今年で45回目となる『日伊友好親善スクール日本インドネシア（日イスクール）』があり、中学生全員が参加しました。昨年度からはTUNAS INDONESIA SCHOOLをお迎えして交流が進められています。舞台発表（舞踊）による文化交流を皮切りに、日本のカルタ遊び、日本の学校の特色紹介スタンプラリー、インドネシアの伝統的な遊びを通して親交を深めました。閉会式が終わっても別れを惜しみ、話す姿が見られ、双方の学校にとって有意義な時間となりました。

TUNAS SCHOOLの理事長からも「生徒たちはとても喜んで、次の機会が待ちきれない」というメールをいただきました。

今後もこのような交流を活発にし、ジャカルタ日本人学校でしか経験できない教育活動を充実させたいと思います。



令和7年度末の離任者をお知らせいたします

稲毛 育	星野 雄太	中川三栄子
枝本 翔	中町 夕子	辻 香穂
徳永 正弘	近藤 健一	永易 茉莉
赤塚 好美	近藤 淳子	西 未来
温品 文浩	槇岡 千誉	山田 実香
菊地孝太郎	筈井 柚伽	